

# 活動報告書

報告者氏名： 井上 賞子

所属： 安来市立赤江小学校

記録日： 25年 6月 27日

## 【対象児（群）の情報】

○学年 現在は中学一年生

○障害名 広汎性発達障害

○障害と困難の内容

- ・書きの困難と、コミュニケーションの苦手さを持っている。
- ・思いを伝える事ができにくく、だまって動けなくなってしまうこともある。
- ・就学時は、適応の課題が大きく、拒否して検査等に全く応じない状態から、知的障害特別支援学級に在籍。
- ・3年生から自閉症・情緒障害特別支援学級へ編入。

## 【活動目的】

○当初のねらい 「伝わる」を実感することで「伝えたい」という思いを広げていく。

○実施期間 5年から中学1年の5月まで

○実施者 井上 賞子

○実施者と対象児の関係 担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

- ・理解している言葉は多く読書も大好きだが、自分から話す事はあまりなく、話しかけられてもだまってこたえない事が多い。比較的、下級生との関わりを好む。
- ・困っていることも、「こうしてほしい」という要求もなかなか伝えられない。
- ・日常は穏やかに過ごせているが、突発的に強い不適応行動に出る事がある。
- ・漢字が大好きでよく覚えているが、書きの困難があるため、文字を書く事には苦手意識が強い。

### ○活動の具体的内容

- ①考えをまとめるツールとして→「SimpleMind+」・「7notes」を活用
- ②思いを伝え合うツールとして→「ぼくらの交換日記」を活用
- ③「教える」活動のツールとして→「i 暗記」・「KesiKesi」を活用



### ○対象児の事後の変化

#### ①を通じて

- ・単語で考えを出して行く所からはじめたことで、とてもとりかかりやすく、並べ替えがかんたんにできることで、考えの整理がしやすい様子だった。
- ・字の形が整わないことも・あり、自分で書いたものを読み直す事は、これまであまりできていなかったが、簡単にテキスト化できたことで、読み直せた。
- ・こうしたツールを使う事で、1人で考えを整理したりまとめたりができるようになってきている。



## ②を通じて

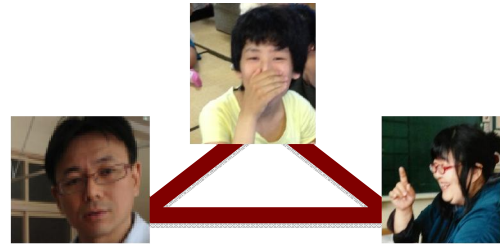
- ・伝えやすい「場」ができ、その中で「伝わる」が実感できた事で、思いを「伝えたい」という意欲が様々な場面で高まってきている。(委員会や交流学級で発言したり、自分から話しかける姿も出て来た)
- ・担任に対して、「お願い」を伝えたり、「不安なこと」を相談したりするようになった。
- ・日常的に感じた事や気になった事も、伝えてくるようになった。
- ・困った時には相談できるようになった事で、突発的な不適応行動がほとんどなくなり、穏やかに過ごせるようになった。
- ・中学への移行支援にも活用した事で、新しい場所へも安心して向かう事ができた。

### 担任と2者間で



「伝わる」実感・思いを共有

### 中学の先生と3者間で



新しい場所への安心感へ

## ③を通じて

- ・既習事項を活用しながら、教える相手の2年生の事を考えながら問題やヒントを準備することができた。
- ・2年生の姿に応じて、指示される事なく自分からヒントを出したり黒板に書いたりすることができた。
- ・回を重ねるごとに「言われて」でなく「自分から」できることが増えている。
- ・「教える」という立場を経験した事で、Aさん自身の「学び方」にも変化があり、「相手がなにを伝えようとしているのか」を考えて学習に参加できるようになってきた。
- ・「教える」活動以外の場面でも、発信する事や自分から関わりを求めようとする姿が出てきている。



## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

#### ☆A児にとっては「前提」として必要→外部の手段を持つ事で、自分の生きやすさが広がったのではないかと

- ・A児の姿には大きな変化が見られているが、iPadという手だてがあって、思いの共有ができていた中でこの姿という部分が大きく、全てをA児が1人でできるようになる事を目指すというより、「裸眼では見えにくい」状況の人が、「眼鏡」で自分の機能を補いながら力を発揮しているように、iPadを使ったコミュニケーションも、彼女の表現の方法として活用していく事が有効だと感じている。

#### ☆周囲との関係の変化を支えた→「伝わる」実感が「信頼できる相手」の存在へつながったのではないかと

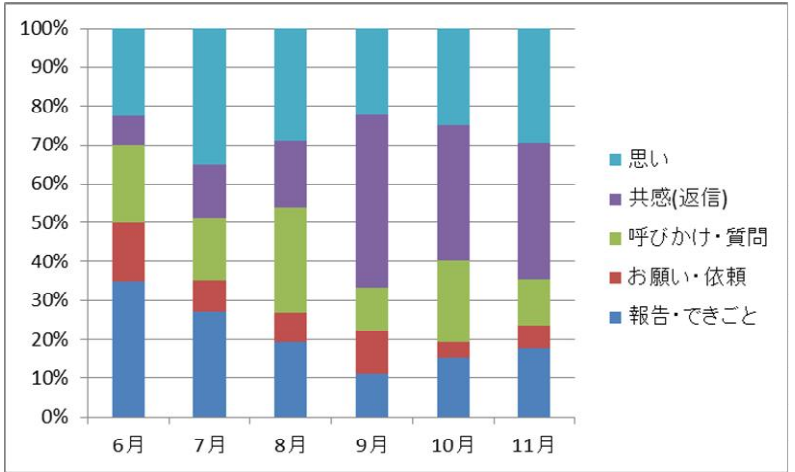
- ・学習上の成果も大きいですが、こうした取り組みを通じて、A児にとって「自分の思いを受け止めてくれる人がいる」と実感できた事の意義がとても大きい。
- ・困った事があった時、今までなら投げ出してその場から逃げていたのに、助けを求めたり相談したりすることのできる相手ができることで、適応が高まってきていると感じている。
- ・「伝わる」実感を持ってのやり取りの中で、自分の想いを「伝える」ことはもちろん、相手の思いを「受

け止める」姿も増えてきており、一方的になりがちだったコミュニケーションの広がりができた。

### 〇気づきに関するエビデンス(6月から11月までの交換日記の内容の解析から)

・最初は、自分の言いたいことを一方的に伝えてくる事が多く、こちらからの問いかけや呼びかけに反応せず、話題がつかないこともあったが、だんだんと「質問」「お願い」といった内容が増えていき、その返信に「ありがとうございます」「わかりました」といった反応が返るようになった。

・一方的な「発信」であったものが、「伝わる」という思いが持てた事で変化してきたと感じている。



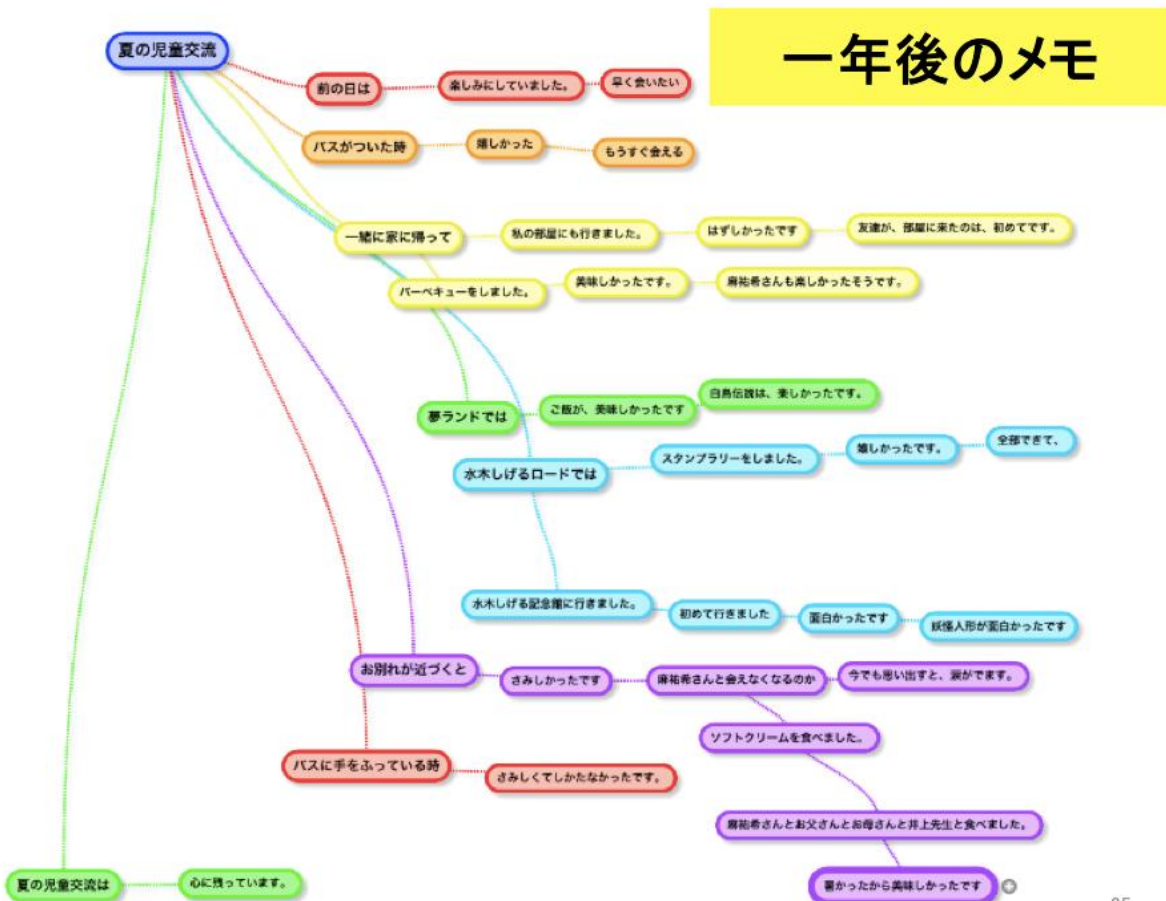
・まずは今まで出せずにいた「質問」や「要求」が増えて行き、そのやり取りを通じて「この人は自分の思いを受け止めてくれる」という見通しができてきたあたりから、相手の思いを受け止めての共感的な返信が増えはじめ、どんどんやりとりがスムーズになっていった。

### 〇特徴的なエピソード

#### ①を通じて

・「単語で考えて行く」「メモを並び替えて構成して行く」という方法を日常敵に活用して行った結果、一年後には以下のようなメモを1人で作れるようになっていた。

・作文やスピーチの原稿を書く際も、テーマやフレームを示せば、自分で考えをまとめて行けるようになり、自信をつけていった。





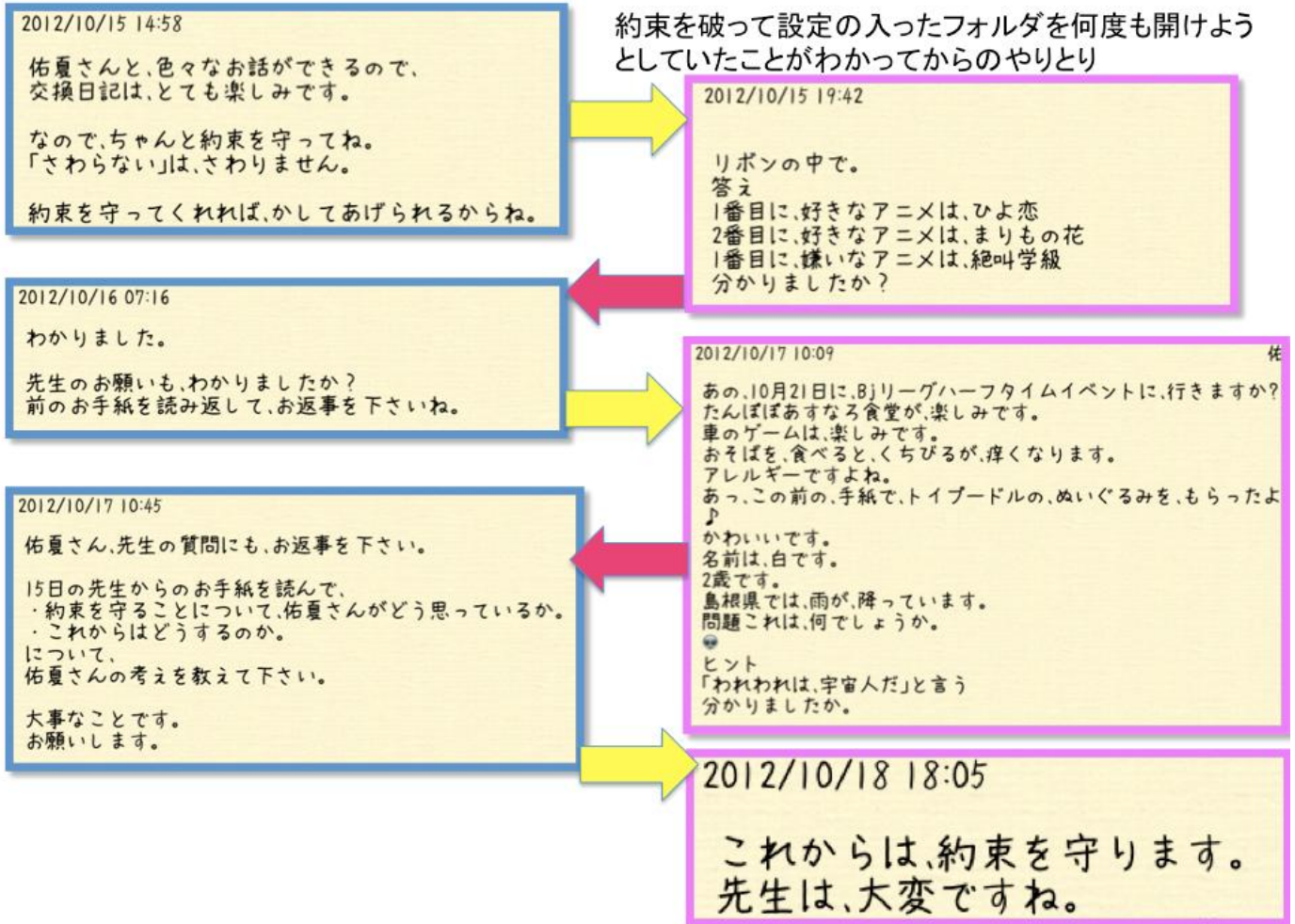
## ②を通じて

○以前は、特に自分にとってあまり聞きたくない話のときは、全く無反応なこともあったが、こちらからの「きちんと考えて返事がほしい」という呼びかけに応じて、行動を調整することができた。

「iPadの機能制限を破ろうとする行為に対して」

- ・なぜここがあげられないのかの理由を説明し「ここは変更したら困るものが入っている」と伝える。
- ・中がどうなっているかはあけて見せた。
- ・「見たい時は言ってくれば見せてあげるからね」と話した。
- ・壊れると困るから、ここは「触らない」と約束し、本人も「わかった」と話した。

※それなのに毎日、「パスワード入力に失敗しました」の表示が出ていた



- ・この返事以降、一度もパスワードを破ろうとした形跡はない。(約束してから一年以上たった現在も)
- ・6年間彼女を担任している中で、たくさんの約束をしてきたが、なかなか守られないことも悩みだった。
- ・もしかしたらAさんが納得しないままに「はい」を言わせていたのではないか。彼女にとって、「約束」として意味をもっていないまま、こちらが押し切っていたのではないかと、考えさせられている。
- ・今回、Aさんが納得した約束にやっとなったのかもしれないと感じている。
- ・きちんと本人が納得した形で約束したことは、しっかり守る子だったということに気づくのに、こんなに時間がかかってしまったことが、改めて申し訳なかった。

○不安な気持ちを伝えることで、相手に受け止めてもらえることを実感していった。

「生理がはじまった不安に関して」

- ・生理が始まったことへの不安を交換日記に書いて来た。

## 夏休み中に生理が始まった時のやりとり

2012/07/22 06:50

せいりが始まりました。  
どうしましょう!?

2012/07/22 12:09

おちついて。  
大丈夫だよ。

体が大人になってきているということです。  
みんな、あることだからね。

2012/07/23 12:01

ありがとうございます。  
嬉しかったです♪

前の時と同じように、  
ナプキンを上手にあてて、まめに交換するんだよ。

- ・このやりとり以降、生理が始まるたびに担任からの返信をコピーペーストしてくるようになった。
  - ・Aさんの中で、自分の不安を受け止めてもらえたことが、安心感につながったと感じた。
- 「中学への不安に関して」
- ・中学生活への不安を日記に書いて来た。
  - ・それに対して、中学の先生から、具体的な返信をもらった。

## 中学入学まで

### 中学の先生からの返信

緊張感が、たくさんあります。( @\_@ )  
どうしよう! ( ⊙\_⊙ )!  
入学式に、たくさん緊張感があります。  
さようなら( \_ \_ )

2013/03/20 09:24

妹尾哲巳



お待ちしております  
というのは「入学してくるのを楽しみにしていますよ」という意味です。

始めて画像を付けてみました。  
中学校の入学式はこんな式場です。



### Aさんの不安

今感じている緊張感は、とても大切なものです。  
気持ちを引き締めて入学式を迎えてください。  
応援しているよ。

### 小学校担任からのエール

- ・困っていることを伝えることで、「応えてくれる人がいる」「安心できる」ということを、感じてくれるきっかけになって行ったと考える。
- ・中学に「待っていてくれる人がいる」「自分の気持ちを知っていてくれる人がいる」という見通しが持てたことで、安心して進学して行くことができたと感じている。



○返信内容の変化が、現実の関係の変化にもつながっていった。

・「お疲れ様です」「お元気ですか」「明日会いましょう」「応援しています」といった呼びかける言葉が増えていった。

・「嬉しかったです」「楽しかったです」くらいだった気持ちを表す言葉が、「会いたいです」「気分がイイです」「忘れません」「大好きです」など多様になってきた。日常でもほとんど聞かれなかった、「さびしいです」「ごめんなさい」「残念でした」というような言葉も出てきた。

・こちらを見ながら「交換日記、きてるかな」と言ってアプリを開く姿が見られた。「お返事が早くほしいことが書いてあるの?」と聞くと、満面の笑顔で「うん!」と答えた。「じゃあ書こうかな」と書き始めると、「待ってるよ」と言って、iPadをにぎりしめていた。書いている様子をのぞくことはせず、「送信したよ」というと「やったー」と言ってアプリをあけ、「来てる。来てる」とはずんで開いていた。

・今までのやり取りを何度も何度も読み返しているようで、「このお話、前に交換日記でもしたよね」と声をかけると、「したよ。これこれ」とさっと出して見せてくれた。

・日常的に「こんなこと書いてるねえ」とにこにこしながら読み返している場面も見られた。

### ③を通じて

OAさんが6年間生徒側で学んで来たものが、「A先生」の活動で見られた。

- ・正解には赤チョークで丸をする。
- ・ヒントを黒板に書いて示す。
- ・指名は同じ子に偏らず、順番にあてる。
- ・できたらほめる。間違えた子には「おいしい」と声をかける。

※これらは事前に指導していないが、「A先生」を始めたその日から、Aさんがごく自然に行っていた。

・彼女がこれまで生徒の側で見て来たものが、自分が先生になった時「場に即した行動」として表出された。

・そこに生徒側の2年生の反応が返ることで、自然で意味のあるやり取りが成立していった。

・同じ時期から、交流学級での授業や委員会活動の際に、話し手の言葉をうなづきながら聞いたり、求められた要求に応えようとする姿が増えていった。以前ならとても緊張していた場面でも、笑顔で応えたり行動したりする様子に、周囲の子ども達も変化を感じるようになっていった。

・発信する体験が、受信する姿勢にも変化をもたらしたのではないかと感じている。



### 【今後の見通し】

・自分の思いを整理する→担任と1対1の関係を築く→小集団の中での関わりを広げると、A児は2年間の取り組みの中で大きな成長を見せてくれた。「卒業」という節目を迎えて環境は大きく変化したが、新しい場所や関係の中でもそうした力を発揮できるように、移行支援の一環として「交換日記」を3月から5月まで、本人・中学の先生・小学校の担任の3者で行ってきた。担任と思いを共有することを体感した場を活用した事で、新しい関係も抵抗感少なく受け入れられた。そして、「信頼できる人が中学にもいる」「今までの関係もなくなるならない」という安心感を持って進学できたことで、今も安定した状態が継続している。

・卒業を機に家庭で『もwifi環境を整えることか』て『きた。

・中学で『のiPadの使用については、卒業前からA児の大きな関心事で『あり、交換日記の中で『も話題に上か』っていた。「中学で『も使って大丈夫」という約束を校長先生からしていたた『き、そのことについても安心して進学していくことか』出来た。

ツールを共有することで、卒業後もつながりは続いており、「授業」という枠を超えて、A児のコミュニケーションは今も広がりを見せている。今後は、地域のiPad学習会等、学校外の場での関わりもつないでいきたいと考えている。

